令和７（2025）年１１月２６日

保護者のみなさまへ

吹田市立千里丘北小学校
校　長　　小 林 大 介

令和７年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度も６年生を対象として「令和７年度全国学力・学習状況調査」を実施し、７月に個人ごとの結果をお返ししました。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科に限られ、測定されたものは学力の一部であって、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった６年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題 に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の 分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

Ⅰ． 教科に関する調査の分析

●国語

《概要》府･全国平均を上回っている。

□領域別

知識及び技能

（1）言葉の特徴や使い方に関する事項、（2）情報の扱い方に関する事項では、全国平均を上回っている。

（3）我が国の言語文化に関する事項では全国平均を下回っている。

思考力、判断力、表現力等

A 話すこと･聞くことと C 読むことは平均を上回っている。

B 書くことは全国値に対して、やや上回っている。

□観点別

「知識･技能」は成果が見られる。「思考･判断･表現」では、全体平均をやや上回っているものの、「知識･技能」の問題と「思考･判断･表現」の問題の正答率では、大きな差が見られる。

□問題形式別

記述問題でも平均はやや上回っているものの、選択式と記述式を比較すると、記述式での正答率は低い。

★国語科の成果と今後の課題について

全体的に、府･全国平均を上回っていました。

学習指導要領の内容では（3）我が国の言語文化に関する事項が全国平均を下回っており、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付かせる問題で課題が見られましたが、そのほかの全ての項目で全国平均を上回っていました。

「選択式」「記述式」については、全国的な正答率も低いですが、本校の正答率も高くありませんでした。特に記述で自分の考えが伝わるように書き表す力を、今後も継続的に取り組んでいく必要があります。

また、無答率（特に選択式）は、全国平均より高くなっており、粘り強く取り組み姿勢は、今後も育んでいきたいと考えています。

●算数

《概要》府・全国平均を上回っている。

□領域別

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」すべての領域で府・全国平均を上回っている。

□観点別

「知識・技能」ので特に高い成果が見られる。「思考・判断・表現」では、全体平均をやや上回っているものの、「知識・技能」の問題と「思考・判断・表現」の問題の正答率では、大きな差が見られる。

□問題形式別

記述問題でも平均はやや上回っているが、正答率は低く、課題が残る。

★算数科の成果と今後の課題について

全体的に、府・全国平均を上回っていました。

「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」どの領域でも平均を上回っています。「数と計算」「知識・技能」などで優れた成果が見られるように、算数の中でも計算問題（今回は小数・分数の計算）は力がついてきています。

一方で、求め方を記述させるような「記述問題」については、全国的な正答率も低いですが、本校の正答率も高くありませんでした。「考え方を書く」「式や図・グラフなどから読み取ったことを書く」など、授業の中で継続的に取り組んでいく必要があります。

また、無答率は、全国平均の半分程度となっており、結果として正答にたどり着かなくても粘り強く取り組み姿勢は、今後も育んでいきたいと考えています。

●理科

《概要》府・全国平均を上回っている。

□領域別

「生命」「地球」の領域で府・全国平均を上回っている。「エネルギー」「粒子」の領域では府の平均を上回っている。

□観点別

「知識・技能」では全国平均を下回っている。「思考・判断・表現」では、府・全国平均を大きく上回っているが、「知識・技能」の問題の正答率と、大きな差が見られる。

□問題形式別

「選択式」「記述式」では、府・全国を上回っているが、「記述式」の正答率は他の問題形式と比べると低くなっている。記述問題については、課題が残る。

★理科の成果と今後の課題について

全体的に、府・全国平均を上回っていました。

領域別の理解度では、「地球」領域での理解が深く、自然現象や環境に関する問題に強いことが示されました。一方、「エネルギー」領域ではやや課題が見られ、今後の学習の重点領域と考えられます。

観点別では、単なる知識の習得に留まらず、思考力・判断力・表現力といった応用的な力が育っていることが評価されます。このことから児童が理科的な視点で物事を捉え、論理的に考える力を養ってきていることがわかります。

ただ、問題形式別の傾向としては、短答式の正答率が高く、記述式にやや課題が見られるため、文章構成力の育成が今後の課題といえます。

2.　生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか、起きていますか。朝食を毎日食べていますか。」の項目で肯定的解答が全国、大阪府の平均と比べて上回っており、生活習慣を整えることの大切さを感じている児童が多いことが分かりました。

また「学校に行くのは楽しいと思いますか。」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」「自分には、よいところがあると思いますか。」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の項目で肯定的回答が全国、大阪府の平均と比べて上回っています。学校生活を前向きに過ごし幸せを感じる気持ちになっている児童が多いことが分かります。仲間と繋がりながら主体的に取り組んでいけるような学校生活をこれからも継続し、自分の良さを感じられるように更なる向上を目指します。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」の項目では９割以上の肯定的な回答があり「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」が全国・大阪府の平均を大きく上回っていました。毎年取り組んでいるいじめ予防プログラムの結果が出ていると思われます。しかし「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。」の項目においては肯定的回答が全国・大阪府の平均を下回っていました。意見を交流して相乗効果の得られる授業づくり、違いを豊かに捉え多様性を大切にできる人権教育を取り組んで参ります。

3.　今後の取り組み

本調査の結果から、本校児童の学力は全体的には全国値を上回っており、良好な学力傾向であると言えます。しかし、項目別にみると資料の活用や問題によっては無回答率が高いことが課題として見えてきています。知識だけではなく身に着けたものをいかに活用して粘り強く問題を解決していくかということが求められます。そのためには授業では１問１答ではなく学習意欲を引き出す発問の仕方の工夫や、ペアやグループでの交流活動を通して幅広い考え方に触れて自らの学びを深める授業づくりの展開を目指していきます。

児童質問紙アンケートでは「学校に行くのが楽しい」や「将来の夢や目標を持っている」の設問をはじめとして多くの設問で肯定的回答が全国値を上回っており、概ね良好な学校生活を送っていることがうかがえました。引き続き、すべての子どもが安心できる学校づくりを目指して、共通ルールでの学習活動や、いじめ、問題行動への丁寧な対応を心がけていきます。児童の健全な成長のため、今後も学校と家庭が連携し、高い人権意識で子どもたちと関わる地域づくりにご理解、協力お願い申し上げます。